

只見町の将来の担い手として、郷土に愛着を持ちつつ、町のよさや課題を根拠づけながら捉え、只見にとどまらず外とのつながりを認識し、持続可能な社会を目指して自ら進んで行動しようとする児童。

# Climbing Routes

## 第6学年テーマ▶只見の川から海へ

月	総合的な学習の時間	各教科等との関連の視点				ESDでつきたい能力・態度
		知識の深化 学習内容・認知	技能の活用 技能・リテシー	価値の醸成 情緒・価値観	行動の変容 態度・行動	
4	【今年のテーマを探ろう】⑤ ・今までの総合の学習を振り返ろう					①批判的に考える力
5	・今までの学習から今年の決定しよう	今までの総合の学習を振り返る中で不十分な点に気づき、子ども達が調べたいことをテーマに据えることができた。	国【時計の時間と心の時間】 ・事例をもとに発表する、自分の考えをまとめる			
6	【只見の川から見えること】⑩ ・第1回目の水質調査の計画を立てよう	国【私たちにできること】 ・自然や環境について考える		道【小川笠船】 私たちにできること		
7	◇明和発見タイム(伊南川の水質調査)(7/3) ・調査結果をまとめよう	国【森へ】 ・自然の豊かさを知る			学 防災教育	
8			伊南川だけ調べても比較することができないという子どもの声から、同じ只見町内にある黒谷川を調べることにした。			
9	・第2回目の水質調査の計画を立てよう ◇黒谷川の水質調査(9/7) ・1回目2回目の水質調査の結果を比較しよう ・二つの川の結果が異なる原因を探ろう	国【やまなし】 ・作品の世界観		国【一番大事なものは】 ・友達のことを聞いて考えを深める	図【ポスターをつくらう】 ・節電・節水を呼びかけよう ・環境	③多面的、総合的に考える力
10	◇学習発表会(10/16) ・山と川と海のつながりを伝えよう 【只見の川から海へ】⑩ ◇伊南川の旅(10/25) ・伊南川から	外【We all live on the Earth】 ・食物連鎖を守る	国【みんなで楽しく過ごすために】 ・目的をもって計画を立てることができる	道【帰ってきたクニマス】 ・自然環境を進んで大切にしようとする		③多面的、総合的に考える力
11	・なぜ日本海にはごみが多いのか原因を探ろう ・川から海へどのようにゴミが流れているのか考えよう 【環境保全に努めている取り組みや人の思い/自分たちにできること】⑮ ・伊南川の旅を通して出た疑問を整理しよう	5年生と合同で行った。伊南川の調査を行ったので、伊南川を下流へとたどって実際に日本海の様子を見たことは、川と海とのつながりに気付くよききっかけとなった。	国【日本文化を発信しよう】 ・考えの発信			⑥多面的、総合的に考える力 ⑦進んで参加する態度
12	◇只見おもしろ学検定 ・疑問点を解決するための方法を考えよう		国【思いを言葉に】	国【大切にしたい言葉】		
1	・iPadで調べたり市役所や観光所に電話をしたりして疑問の解決に努めよう					⑦進んで参加する態度
2	・環境保全のために自分たちにできることは何か考えよう ◇全国海洋教育サミットへの参加 ◇パンフレットの配布 ◇伝統芸能発表会 ◇つる細工教室			国【海の命】 ・生き物と人間の共生		
3						

【今年のテーマを探ろう】  
これまでの総合的な学習の時間での学びを振り返ることを通して、感じ方に矛盾が生まれていることや、明らかになっていない部分に気づき、その解決に向けて見通しをもって計画を立てていく。  
【只見の川から見えること】  
2か所の水質調査を行い、結果を比較することを通して相違点に気づき、結果が異なる原因について様々な視点から追求する。  
【只見の川から海へ】  
伊南川の最終ゴール地点である日本海へ行き、ゴミの量のちがいをめぐって様々な視点から追求することを通して、川と海とのつながりや、環境保全につながる取り組みがあるという視点を持つ。  
【環境保全に努めている取り組みや人の思い/自分たちにできること】  
環境保全に努めている取り組みを知ることを通して、人と自然、社会は互いに関わり合っていることに気づき、持続可能な社会を目指して主体的に行動しようとする気持ちを高めよう。

### 児童の実態

只見町は自然が豊かで川もきれいな町であり、誇りに思っている児童が多い。しかし、自然が豊か、川がきれいという根拠があいまいであり、昨年までの学びから本当に只見町はきれいなのか？という疑問が生まれている。川と海はつながっていると理解はできているが実感は伴ったものではない。

### 教師の願い

これまで学習してきたことをつなげて考えたり様々な視点から課題を捉えることを通して、根拠を明確にして結論づけ、只見についての理解を深めるとともに他地域とのつながりを感じ、持続可能な社会を作るために主体的に行動できるようになってほしい。